

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772001604		
法人名	株式会社 住装		
事業所名	グループホーム あびこやすらぎの里		
所在地	大阪市住吉区我孫子2-1-18 (2階)		
自己評価作成日	平成26年9月3日	評価結果市町村受理日	平成26年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月の行事の中で、外出レクやボランティアさんの演奏、近隣の幼稚園児の訪問、また事業所間での招待を受け、夕涼み会などにも参加させていただいたり、地域の祭りの手伝いをさせて頂いたりと積極的に地域住民との連携に取り組んでいます。毎月入居者様の近況報告として、やすらぎ新聞を作り送付しています。また行事のたび、参加の声掛けを新聞に載せ、参加を呼び掛けています。今後は、入居者様のちょっとした声でも聞き逃さず、行きたいとこ、食べたいものなどを聞きとり、一人ひとりが満足してもらえるように、職員一同支援していきたいと思ひます。地域との連携の強化にも力を入れ、協力体制で臨んでいけたらと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階にデイサービスを併設し、広い敷地に囲まれた施設は裏側の空き地(駐車スペースとして使用)や2階の会議室及びテラス等は今後も色んな用途に使える利点がある。管理者は就任後8か月経過したばかりだがこの間、2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、地域住民の代表として地区町会連合の副会長が新たなメンバーとして参加され、課題であった地域との関係作りが一步前進した。並びに地域包括支援センターが主催する地域ケア会議に参加し、多職種のメンバーの方々との徘徊や防災等の話し合いを行っている。事業所は毎月利用者1人ひとりの状況報告書を施設の「便り」と一緒に送付し、家族との会話につなげている。排泄ケアに関し、家族の了解の下でボクサーパンツの使用を展開したが色んな相乗効果を生み、利用者・家族から感謝されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の人格を尊重・尊厳を守り、理念の「安心」「安全」「満足」をモットーに、職員一同取り組んでいます。	「家庭的な雰囲気の中で皆様の人格を尊重し、安心・安全・満足をモットーに、地域や家族の協力を得ながら質の高いサービスを目指す」という理念を掲げ掲示し、職員は毎日唱和し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例の、七夕まつり、敬老の日前後には近隣の幼稚園児が慰問に来られ交流を行ったり、施設として地域の方への施設行事の参加に声掛けを行い、参加して頂いています。例)BBQ祭り、盆踊り、櫓の解体設置等の協力	自治会に加入し、地域の盆踊りの準備段階を手伝ったり、ゴミ掃除に参加している。近隣の幼稚園園児が七夕まつりと敬老の日前後に毎年恒例として来訪され、利用者にとって大きな楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、自治会の方への協力をお願いし、施設側からも地域の行事などの参加の声かけを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、地域の方の意見を傾聴し、施設側から積極的に地域に出向くよう取り組んでいくようにしています。会議のたびに次回の日程を報告させていただき、開催しています。	今年度は年6回の開催が出来そうである。参加者のメンバーに町会連合の副会長が新たに加わり、地域の情報や意見を聞くことが出来るようになり、以前からの課題が大きく前進し、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空床や、入居者の対応に関する情報を報告しながら、また区内のグループホームネットワークに所属し、情報の共有を図っています。	市が主催するGH連絡会に参加し、交流を図ったり、情報を得ようとしている。地域包括支援センターや市に分からない事があれば電話で問い合わせ、助言を得るように努めている。地域ケア会議に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践状況していますが、夜間に関しては少し不十分で玄関の施錠は行っています。	原則身体拘束は行わないを事を明示し、職員はマニュアル等で共有している。日中玄関は施錠せず見守りで対応している。	マニュアルや年間研修計画は整備しているが定期的なマニュアルの更新や研修実施記録を作成し、毎年全職員が共有するように望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については、職員全員が周知しており、報告、相談、連絡を徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中にも後見人さんを利用していますので、十分活用できています。今回は6月に講習を行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	消費税導入に伴い、契約書の変更などがあり、新たに変更書類を郵送し、十分に理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、少し時間を頂き現在の身体状況はもちろん家族様の不安、心配事を積極的に傾聴するようにしています。	管理者は利用者・家族に意見や要望がある事を理解しており、職員に出来るだけ家族の来訪時を利用して聞くように努めている。家族の苦情等は日誌に記入し、申し送り時に話し合うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会は全員参加を徹底し、意見交換を行い入居者により良い知識向上に努めています。不参加のスタッフには、議事録の周知を行っています。	毎月職員定例会議を開催し、運営状況や個別ケアに関し話し合っている。意見を述べる職員とあまり言わない職員に分かれるが職員は日々リーダーを通じ、相談出来るようにし、言い易い環境を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境はあるが、向上心に向けての環境は、やや欠けていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各人から研修の希望がない限り、積極的に声かけは少ないと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員個々に、スキルアップを求め、ネットワークを広げ取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本位の取り組みの徹底の元、家族様の要望・意見なども含め、安心できるような信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入に際しては、事前にご本人・ご家族様の意見・不安などを聞き、対応に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは共有し、家事分野においては、特に働きかけ、筋力向上に努めています。談笑したり、共に築ける作業なども行い、日常生活動作の向上に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での状況は、毎月の便りの中で報告し、面会時に家族様の思いや意見を傾聴し、対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限はなく、いつでも面会できるように配慮し、楽しい時間が過ごせるよう関係を築いています。	タイピストをしていた昔の職場仲間が利用者の終末期まで来訪したり、幼馴染の知人が訪れるなど、来訪しやすい環境を心がけている。家族の支援で実家に帰ったり、昔の美容室を利用したり、外食に出掛けたりして馴染みの場所支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その場の状況に応じて関わりを持ち、職員の配慮なども含め関係性の築きに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援に関しては、契約終了後も気軽に来て頂けるよう柔軟に対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や思いは、できる範囲で支援し、施設の中だけでの生活状況にならないよう、工夫を行っています。	職員は入所時のアセスメントで知り得た利用者ごとの生活歴等を共有している。入所後も利用者や家族との会話から新たな思いや希望を繰り返し聞き、出来るだけ沿うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活に近い生活環境に取り組み、散歩、買い物、ドライブなどの支援を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の情報をもとに、ご本人への聞き取りや、家族様への協力を得ながら対応しています。状況の変化にも迅速に対応をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を取り巻くチームケアへの意見交換や現在必要な介護方法などを取り入れ、計画作成を行っています。	毎月モニタリングを実施し、チームでカンファレンスを行い、医師や看護師及び家族と相談しながら介護計画を作成している。見直しは6ヶ月ごとに行うが入退院や急変時には即対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや、日々の状況把握を交換し、また申し送りノートの作成で全職員への周知に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一線を越えない程度で支援を行っています。家族様の介護負担軽減にも相談・助言を行い、柔軟な対応を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の楽しみを活かし、地域への積極的な参加を共有し、対応しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医もあるが、入居者様の今までの関係性を重視し、入居前からのかかりつけ医が希望の際は、柔軟に対応している。	利用者の希望を尊重し、本人及び家族同意の上、連携施設の診療を受けている。内科医の往診は月2回、訪問看護からは週1回の来診で健康チェックを受けている。従来からのかかりつけ医の利用者は1名で月1回の受診は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2/月の訪問看護による往診、定期的な受診に、訪問歯科などの健康管理を行い、状態観察の把握、緊急時の調整を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の対応として、適宜主治医や病院への面会を重ね、情報交換を行い、退院に向けての支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、医療的な処置が必要になった時、終末期の対応を状態を見ながら、家族、医療機関との連携によって支援しています。	事業所での看取りの経験はない。経年と共に利用者の加齢を考慮する折、管理者はその必要性を認識している。重要事項説明書の「病状が重度化した場合の対応に係る指針」に基づき説明をしているが終末期支援を前向きに準備思考段階である。	連携医の中から理解のある内科医選出と協力要請の契約、病状の経過に応じた指針の作成、看取り開始時期の設定と対応等組織編製の準備並びに記録物としての各種書類作成等の具体化が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設のデイサービスの看護師や訪問看護師へ連絡を取るように周知し、迅速な対応を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練や夜間を想定した訓練を行い、また地域との連携を図り、協力要請を行っています。緊急連絡網を作ったり、家族様への避難場所の送付などを行いました。	消防訓練は規定通り実施している。火災のみならず水害・地震等他の災害を考慮し「災害時の対策マニュアル」の見直しの時期を迎えている。施設は敷地にゆとりがあり、夜間火災時の避難に恵まれている。地域住民との連携は現在協力要請進行中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき対応をしています。	施設の理念に利用者への対応として主旨が掲げられている。言動時の言葉掛けが接遇や利用者介護時の対応に無意識表現として出る。不良時はその都度タイミングを見て、お互いに注意し合っている。」個人情報など書類管理は適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意見・思い・希望を取り入れ、できる範囲での支援を提供し、自己決定に努めるよう対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはありますが、希望に沿って対応するように心がけています。現在は、散歩や買い物、近隣周辺の散歩をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア、入浴後、日中の状態を見ながら、衣類等適宜に対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者からのメニューですが、行事や誕生日の際は食材をキャンセルし、ご本人の好物を取り入れた食材にしています。	業者より納入の食材を職員と関心のある利用者も一緒に調理し、全員が食卓を囲み楽しんでいる。皿洗い、味見担当者、料理する人等自然な感じで役割分担をしている。行事・誕生日等には希望を取り入れ変化を持たしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるメニューで、バランスも摂れており、栄養状態の管理は可能で、水分補給もこまめに無理強いせず提供しています。嗜好品の提供も豊富に行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの徹底、抵抗の強い時などは、スポンジなどを使用して行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握と、日常的に排泄の失敗や量的な部分も視野に入れ、ご家族様の協力もあり、ボクサーパンツを取り入れています。	各人の排泄パターンを考慮し、トイレへの誘導を行っている。外部情報より本人及び家族への説明・同意上、全員がボクサーパンツを採用している。着用時は体にフィットし外見も良く、洗濯もでき成果は好評、自立支援にも有効とのことである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の対応として、内服薬の調整や看護師による浣腸、体調に合わせた水分補給の励行に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2/週の入浴ですが、ご本人の体調や気分不良時等、曜日関係なく提供するように努めています。夜間に関しては、見守り的に不十分な点があり、現在はできていませんが今後取り組みたいと思います。	基本は週2回・午前中の入浴であるが頻度や時間の希望に合わせている。入浴以外に体調を考えシャワー・清拭・足浴等臨機応変に対応している。入浴を楽しむ工夫としてゆず湯、温泉入浴剤を活用している。浴室は広く清潔に整備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本就寝時間はありますが、ご本人の思いをくみ取り就寝したいときに誘導するようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に主治医との報告や相談のもと提供しています。錠剤や粉末等も相談しながら提供しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の誕生日や、行事には、好物を聞き、食べていただけるように支援しています。体調不良時などにも対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時の外出は、できる範囲で支援を行い、車の利用日も異なっている為、限られた時間しか提供はできていないが、今後、取り組みたいと思います。	日中、玄関は施錠していない。玄関を出たところや、近隣の公園まで散歩したり、外気に触れる努力はされている。特別な外出、例えば車のチャーター、引率者の調整をし、「海遊館」へ出向く等、レクレーションの一環として計画を立てている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望時には、職員と共に出かけ、ご本人に清算してもらいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、事務所まで来ていただき、連絡を取ってもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は広く、食事のスペース、寛ぎのスペースに二分して、生活感を出すようになっています。空調は、エアコンや扇風機の使用で臨機応変の対応をしています。	共用空間は全体としてゆとりがあり、安全・清潔・整理・整頓され快適に見える。居間にはソファ、椅子、テレビ、大テーブルや個人机を配置し自由に場所を選ぶことが出来る。住宅街にあり室内は静か、空調で温度調整はされている。壁に切り絵等季節を感じるものが掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長いソファをいくつか設置し、好きな様に座って団らんして頂いたり、居室に入る等、自由に時間を使えるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を設置し、使い慣れた物を使って頂いています。	利用者が過去に使用していた馴染みのものが搬入されている。アルバム、絵画、手芸作品、仏壇、ぬいぐるみなど個人の意向が尊重されている雰囲気である。各自表札の傍に近隣の幼稚園児作成の絵カードが掲げられ癒しを醸し出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に、手摺りやトイレの場所の表示などを行い、自立に向けて取り組んでいます。		